

## 周囲の言動や音に過敏に反応し、他者との関係性に困難さを有するアスペルガー症候群の中学2年の生徒に対する合理的配慮の事例

### 1. 事例の概要

A生徒は、アスペルガー症候群で、私立のB中学校の通常の学級に在籍し、全教科の授業を通常の学級で受けている。どの教科においても落ち着いて前向きに取り組み、疑問点を残さないよう、積極的に質問もする。また、理解が早く、国語や英語を中心に優秀な成績である。ただし、全体の場での指名による発言や音読等は緊張する様子がみられる。

生活面では、不安感が強く、初めてのことや心配なことがあると、事前に必要以上に考えすぎてしまう傾向がある。対人関係では、どのような状況であっても他人を受け入れ、穏やかに接するため、集団になじめない生徒やよりどころを求める生徒がA生徒のもとに集まってくるが、実際にはうまく対応できず、自分で抱え込むことで受けるストレスは大きい。また、自分とは関係ないところで起こっている問題までも気に病む傾向がある。このようなことから、他人との距離のとり方を本人が納得できる形で説明したり、A生徒の思いを話すことによって気持ちを整理させたり、別室で一人になる時間をつくるという合理的配慮を行った。このことにより、少しずつ落ち着いて学校生活を過ごせるようになってきた。

**キーワード** アスペルガー症候群、不安感、別室、過敏性

### 2. 生徒の実態

A生徒は、通常の学級に在籍する中学2年である。小学校2年生のときにアスペルガー症候群との診断を受けている。小学校3、4年生の時は、通級による指導を受け、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍していたことがある。

集団の中に入れなかったことや、様々なことが気になることで自分を責めることが多い。規範意識が非常に強く、ルールを破ることや人を傷つける言動に過敏に反応してしまう。また、自分の失敗をいつまでも気に病んだり、周囲で起こっていることに対してストレスを溜めたりするため、一人でゆっくり休む時間や教員が話を聞く時間が必要である。自身が別室で休むことを気にして、無理をして教室に戻り、状態が悪化することもしばしば見られた。また、聴覚過敏で騒がしい雰囲気にも耐えることが難しい。

### 3. 本事例に関する基礎的環境整備

- 学級担任を中心に、インクルーシブ教育担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー、合理的配慮協力員、外部の専門家をはじめ、全教職員が協力して支援にあたっている。【基礎1】
- 月1回の校内支援委員会には、B中学校教職員のほか、週1日勤務のスクールカウンセラー、週1日勤務の合理的配慮協力員に加えて、スーパーバイザーとしての外部の専門家も交えて、支援の方法や振り返り、今後の課題等を話し合っている。【基礎1】

- B中学校では、特別な教育的支援を必要とする生徒の指導・支援にあたって、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成している。【基礎3】
- ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを心がけ、視覚的な教材の効果的な提示などに取り組んでいる。また、グループでの学習を進めている。【基礎4】
- 相談室を設置し、カウンセラーや担任との面談、A生徒が疲れた時に静かに休むための別室として充てている。【基礎5】

#### 4. 合意形成のプロセス

A生徒本人及び保護者から支援の申し出があった。保護者からは、B中学校入学時に、周囲のことが気になりすぎて、全てを自分のこととして捉え抱え込む傾向があること、そのことを上手に処理できずにストレスをためることがあるため、疲れたときに静かな状態で休憩できる部屋を準備して欲しいという申し出があった。また、入学後に、A生徒からも同様の申し出があった。支援を決定するために、職員会議および校内支援委員会にてA生徒の実態を共有し、外部専門家の指導・助言を受けながら、支援の方法について話し合い、休憩できる別室を設けた。

#### 5. 合理的配慮の実際

- 当該学年の履修内容を理解するためには十分な学力がある教科については、積極的に検定等を受けるように促したり発展的な内容の問題集や課題を解くように勧めたりしている。また、家庭学習の頑張りや形に残るよう「勉強ノート」に毎日取り組ませ、家庭学習に対する心配を取り除くように働きかけている。【合理①-1-1】
- ストレスを感じる関係性にある友人とは距離をとるよう伝えたり、一方的な関わりを押しつけられる場合は、教員に報告させたりした。【合理①-2-1】
- 理想や目標の設定が高く、できない自分を責めたり、自分と同じ目標を、他の級友にも求めてしまったりする傾向があるので、考え方や価値観は人それぞれであるということを理解させるようにした。【合理①-2-1】
- 外部の専門家や合理的配慮協力員が、教職員に対して発達障害のある生徒に係わる研修を行っている。また、スクールカウンセラーを配置し、生徒の心理面に関する相談を受けている。【合理②-1】
- A生徒が使用する教室の机や椅子の足全てにテニスボールをはめ込み、音を軽減させている。【合理③-2】

#### 6. 本事例の成果と課題

A生徒は、疲れたときには別室で休み、話を聞いてもらうことで落ち着くことができた。また、「嫌なことを嫌だと伝えることは決して悪いことではない」と考えられるようになり、ストレスを感じる関係性にある友達とは、距離をとって関わるできるようになってきた。また、テニスボールを利用して音を軽減することで、環境の静穏が保たれ、落ち着いて授業を受けられるようになった。

課題として、周囲で起こっていることを見聞きして、「関わる・関わらない」を判断できる力をつけること、他の生徒に自分ができる関わり方をすることが挙げられる。